

# 日台稲門会

会報 第21号

令和 3年1月1日発行  
早稲田大学校友会 日台稲門会  
発行責任者 会長 三村 達  
ホームページ お問い合わせ  
<http://nittai-toumonkai.com/>

## 日台稲門会の活動状況について 会長 三村 達

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は新型コロナウイルス感染拡大の中、日台稲門会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。昨年は、年内に予定されていた会議・各種総会・会合・イベント等の校友会・稲門会の年内開催を中止・延期するよう大学から要請があり、日台稲門会としましても6月13日（土）に開催した第24期定期総会は会場での開催を行わず、メールでの開催に致しました。



11月15日（日）に開催した秋季講演会「秘書の私が見た李登輝元総統」もオンラインで講師の早川友久氏には台湾からご講演いただきました。オンラインでの講演会は日台稲門会ではもちろん初めてのことでした。またかねてより活動の一つとして実施したかった留学生との交流会を台湾協会の協力も得て初めて実施し留学生からはかなりの好評を得られたことから今後も日台稲門会主要なイベントの一つとして実施していこうと考えています。

日台稲門会では新型コロナウイルスが一日も早く収束（終息）するよう願っていますが、現状では新型コロナウイルスの感染拡大がいつ収束（終息）するかわからない状況であり、しばらくはオンラインでのイベントにならざるを得ないかもしれません。ただオンラインでの講演会・イベントも台湾の講師に日本に来てもらわなくても台湾からの講演が可能になることや会員の方々も会場までわざわざ出向く必要がなく自宅で聴取することができるというメリットもあり、コロナウイルス感染拡大がある程度終息した後も会場での講演会・イベントに加え、オンラインイベント、オンライン講演会の開催についても検討していきたいと思っています。

日台稲門会では今後とも既成概念にとらわれることなくいろいろな形で会員・会友の皆様に情報を提供できるよう幹事一同で考えていきたいと考えています。

今年も日台稲門会の活動に対しご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

## 李登輝元総統追悼特集

昨年7月30日に李登輝元総統が亡くなりました。李登輝氏は、日本人駐在員にはいつもにこやかに接してくれ、日本に対しては、もっと自分の力を信じて自信を持たなければいけないと叱咤激励してくれました。そんな李登輝氏に対する思い出を長い間李元総統と親交のあった岩永名誉会長からうかがいました。

### 『李登輝総統を偲んで』

日台稲門会名誉会長 岩永康久



李総統は、私の人生を大きく変えたといっても過言ではない。

過言ではない。2000年に台湾住友商事社長として赴任、異例の長さで7年間駐在した。その間、台湾日本人会会長を二期務め、李総統とお目にかかる機会は多かった。私邸、公邸にも何度か伺い、「政治哲学、人生観、宗教観」等を聞かせて頂き、深く高邁な理想に感銘を受けた。「これからは若い人達の交流、相互理解が大切。岩永くん頼むよ」と大きな手で握り絞められた痛さが今でも残っている。李総統の日台関係に関する熱い思いをまさに痛感し、住商退職後は早稲田大学で「ビジネス現場から見た日台中米関係」なる講座を8年も続ける事と為ってしまった。毎年、講座を終えた後、ゼミ生を台湾現地研修に連れて行き、いろいろな方々と面談の機会をもうけた。学生に取り一番興味深かったのは、もちろん李総統の講話、討論会だった。いつも1時間半程の予定が、3時間に及ぶような熱の入れよう！ご老体のお疲れを懸念し

たが、「早稲田の学生との話は楽しい！！気にしなくていいよ」との対応を頂いた。社会に巣立って、今や日台関係に貢献している卒業生も多い。



李登輝さんとの会談



訪台した岩永ゼミの学生へのレクチャー



台中日本人学校にて



台中日本人学校児童生徒に熱く語る



執務室で

## まぼろしの『台湾の主張』講演 橋本紀明

22年も前の話だが、当時、李登輝総統が、台北の早慶OBの為に講演会をして下さることになった。ただ、海外出張直後で風邪をひいてしまい、当日は欠席。講演原稿（日本語）は稲門会の北村友雄氏（本年4月7日逝去）が壇上で代読した。話の中心は、中国は5つに分かれた方がうまく機能するという文言（発言）だった。当時、講演の記録と録音係だった私は、直後、北村さんに「こんなことを言っているのですかね」と聞くと、北村さんも「そうなんだ、私も読みながらびっくりした」と。それからすぐに講演と同じ内容の中文版がでた。案の定、中国が怒った。そしてその後日本語版発刊。日本語版では、ジョセフ・ナイのエンゲージメント論などは載っていたが、残念なことに一番肝心の中国分割論は削除されていた。当時は、今以上に中国の反応に気をつかう時代だった為、出版社の方で忖度してしまった結果だと思う。私は、李登輝総統の文章が、あまりにもうまいので、「誰か日本人が翻訳したのですかね」と聞くと、北村さんは、「総統府で、李総統以上に日本語がうまい人はいない。他の人が翻訳しても100%修正されてしまう」とこっそり返答。今回、そんなことを思い出しながら、あらためて手元にあった『台湾の主張』を読み返してみた。やはり李総統の考えは当たっているような気がした。駐在していた当時、台北市内でよく政治家を見かけた。李登輝氏、馬永九氏、陳水扁氏等。今思い出しても、贅沢な体験だったと思っている。ただ、李登輝総統は、いつも他の政治家とは別格に見えた。

## 留学生交流会

### 『学生交流会の開催』

小椋和平

昨年12月14日（金）グッドモーニングカフェ早稲田にて日台稲門会の主催で留学生交流会を開催した。留学生交流会は初の開催ということもあり、台湾留学生の今後の人生設計に資する会にするべく企画、準備を行った。

第一部では、梶山幹事長の挨拶に続き、今回の交流会を後援して頂いた株式会社ソーシャライズより「日本と共にキャリアを築く」と題した就職支援関連の講演をして頂き、その後日台稲門会の幹事を務める相京行政書士に「在留管理制度における知識」に就いての詳細な説明をして頂いた。第二部では、台湾グローバル人材との交流を行い、日、米、欧で業務経験を持つ台湾若手社会人3名をゲストに招き、各テーブルに分かれ軽食を採りつつ交流した。三名のゲストの豊富なキャリアに加え、中国語で会話が出来ることもあり12名が参加したWTS Aの留学生達も積極的に質問や意見交換を行い、和気藹々の雰囲気のもとで有意義な時間を過ごして貰うことが出来た。後日留学生に実施したアンケートでも今回の交流会は好評で今後も継続して欲しいとの要望が数多くあった。

昨年は、新型コロナの影響で残念ながら実施できなかったが、日本で働いている台湾のOBから直に話を聴けることを留学生の皆さんは楽しみにしているため、新型コロナ終息後には、是非とも第二回を開催したいと思っている。

日台稲門会としては会の運営目標としている<留学生支援と日台若手人材の交流支援>にも合致する行事であるため、今後も留学生の関心が高い課題を対象とした留学生交流会を継続して行きたい。



真剣に話を聞く留学生のみなさん

なお、セミナーは、一般財団法人台湾協会、株式会社パイロット・ジャパン、株式会社ソーシャライズ、そしてあいきょう行政書士事務所の全面的協力の下、開催することが出来ました。ご協力ありがとうございました。

## 台湾総統選挙現地突 撃レポート

台湾の選挙といえば、激しい街頭活動、そして投票が終わるとみんなでサウナに行って大きなテレビを見ながら議論するというのが定番でしたが、今年1月も総統選挙があり、蔡英文氏が選ばれました。今回、この選挙を直に見た本会の小川英郎さんに体験談を語ってもらいます。

『臺灣の選挙に勢いで行って視た！』

小川英郎

2020年1月11日台湾の選挙を視に行った。きっかけは昨年晩秋である。ご退官間近い若林正丈先生率いる早稲田大学台湾研究所のワークショップに行った帰りである。産経新聞河崎真澄氏をはじめ、元全日空台北支店長、台中東海大学の先生・早稲田でジャーナリストを目指す桃園出身の女子・山形大学の先生で日台政策研究所（不肖小川も理事です！）の先生達計6人が偶然会い、反省会と称して大学近くの台湾料理屋『ゆめ庵』（女将は台北出身）で懇親、黒霧島が2本空くほどの盛り上がりの中「来年の選挙はみんなで一緒に絶対視に行こ！」と約束して閉会した。結局、台北に集合したのは6人のうち3人であった。絶対というのはこの通り大体50%の世界を言うらしい。

前日前乗りして夜、長安東路の『中央市場生猛海鮮』で作戦会議を開催。なおこの店は『な～るほど・ザ・台湾』K元編集長のオススメである。

私も四年前の蔡英文総統就任式は参加したが選挙視察は何せ初めてである。我々3人（小川と山形大先生2人）だけでは心もとない。

よって、総統選挙視察6回目というフリージャーナリストのM氏に来てもらった。作戦本部長である。M氏いわく「投票は8時から4時までで、その後選挙速報。夜、勝利演説と敗北宣言がある。4時から（民視か三立のTVで）選挙速報を見る。状況をみて選挙本部に向かう。よって朝から4時までは暇なので遊んでもよろし！」と、作戦はいたってシンプル。11日朝、台湾駅前のホテルの外に出てみた。対面は台湾駅前。快晴！東京よりは少し暖かいが勿論寒くはない。天気予報は全国的に好天気、但し4時頃から雨模様・・・。

この天気予報が蔡英文・民進党に有利に働いたと思うのは私だけではない。午前中永興市場付近に行き烏魚子を調達。後、天母在住の辛正仁さんを訪ねる。辛さんは台湾世界遺産登録会の重鎮だ。もちろん正式には台湾に世界遺産は無い。が十分にそれに匹敵する遺産はある（この話題は本会報の『台湾関係新刊』参照）。辛さんは丁度選挙から帰ってきた所だった。

「今回はスムーズで混んでいませんでした」  
「前は投票項数が多すぎて混乱しました」  
蔡英文さん！反省です。理想主義は何人にも通用せず！です。次回市長選挙時は注意しましょう。

4時ホテルに戻る。選挙速報が始まる。民視・公視、TVによって得票数が違う・・・開票方法は原始的。人気者になったのは言うまでも無い。

それから2時間後の6時過ぎには蔡英文の圧倒的リードが保たれ得票率が57%で不変になったため、民進党本部のある北平東路に向かう。幸い、小生の朋友、H医者（山形大医学部雲林出身）の一番弟子の陳さん（女子）が先導してくれたためなんとか会場につく。開票毎に正の字を書いていく。得票数を書くメガネのお兄ちゃん、パーマヘアのおばちゃんは開票現場中継で何度も登場。

途中老台北達が「もっと前に行きなさい」と優しく道を譲ってくれた。感動的だったのは、蔡英文が香港に話題を向けた時、ひとりのおばあちゃんが号泣し始めた。「加油香港…」と囁いたと同時に、会場が「加油香港！加油香港！」の大合唱。

小生も泣きました(笑)。

感動の北平東路でした。

もちろん、その後はK元編集長オススメの生猛海鮮で呑み潰れ。



## 三台会との交流

『日台早慶ゴルフ対抗戦』 根本宏児

2020年春季戦はコロナの為中止となりましたが、秋季戦は感染防止に努めながら開催しました。

2019年の結果も含めご報告します。

2019年春季：4月22日（月）

於：習志野カントリークラブ キングコース

2019年秋季：11月8日（金）

於：大宮ゴルフコース

2020年春季：中止

2020年秋季：10月23日（金）

於：泉カントリークラブ

早慶共に各10名、計20名前後の参加者で開催しています。対抗戦は、早慶各々上位5名のグロススコアでの戦いとなりますが、残念ながら過去3回共に慶応側の勝利となりました。個人戦は新ペリア方式で、2019年春季は慶応の金光さん、秋季は早稲田の関根さんが、2020年秋季は慶応の建部さんが優勝しました。

最近の参加者は、昭和38年卒から平成5年卒まで幅広い層になっています。また、プレー終了後の表彰式はゴルフ場で行いますが、その後の懇親会を最寄りの駅近くで開催しており、懇親の輪が広がってきています（2019年秋季は10名が参加）。今年はコロナの影響で2020年秋季の懇親会は中止し、成績発表のみとなりました。

特に参加人数の制限はなく、年2回の開催（原則5月と10月）になっていますので、参加希望者は是非幹事までご連絡ください。次回は、2021年5月28日（金）開催の予定です。

幹事：根本（Email: koji050857@gmail.com  
Tel:090-1114-9866）



春の早慶コンペにて

## 台湾関係新刊

### 『登輝秘録』（河崎真澄著）

今年、産経新聞に連載されていたもので、本省人である李登輝さんがいかに外省人中心の国民党の中で権力をとったかについて詳しく触れています。



### 『李登輝 いま本当に伝えたいこと』 （早川友久著）

李登輝さんの日本人秘書として接していた為、著者のみしか知らないようなことまで詳しく述べています。



### 『台湾世界遺産案内』（既刊）（平野久美子編集）

「台湾に世界遺産はいくつあるか？」  
一瞬、いくつあったけ？と思案する。実は一つもないのである。理由は台湾が国連に加盟していないから。但し、皆さんご存知の様に「世界遺産級」の自然や歴史建造物がたくさんある。政府は2002年から世界遺産候補地の選定作業を開始。2017年現在で18か所が候補地になっている。本書は「トオサンの桜・散りゆく台湾の中の日本」をはじめ台湾と日本の関係をテーマに数多くの著作で有名な平野久美子さんが編集。執筆者は早稲田OBの片倉佳史氏を含め十名を有しシャープな写真も提供している。候補地を列举しよう。

1「<sup>ぎょくざん</sup>玉山国家公園」、2「<sup>たろこ</sup>太魯閣国家公園」  
この二つは私もみなさんも知っている。

3 「<sup>せいらんさんかい</sup>棲欄山檜木林」<sup>ぎらん</sup>宜蘭の近くだが、私は知らなかった。

4 「<sup>だいとんざん</sup>大屯山火山群」 陽明学の陽明山だ。

5 「<sup>ほうこげんぶがん</sup>澎湖玄武岩自然保留区」 台湾海峡だ！

6 「阿里山森林鉄道」 7 「台鉄旧山線」 鉄男・鉄女にはたまらない遺産である。

8,9 省略。

10 「<sup>うきんとう</sup>烏山頭ダムと<sup>かなんたいしゅう</sup>嘉南大圳」



(by 小川英郎)

## 台湾最新映画紹介

『私たちの青春、台湾』

10月31日(土)よりポレポレ東中野他全国順次公開中。上映館は題名で検索して公式ページ参照。同名邦訳版書籍(五月書房新社)も映画公開に合わせて発売中。

## 会員の近況

・2020年春まで当会の会計担当だった川村由紀さん、第一子を授かりました。おめでとうございます。

・当会の広報担当の寺田修さん(サブスリーレーサー)、昨年は、ボストンマラソン、ロンドンマラソン完走、今年はバーチャルマラソンで2時間51分の完走記録。これからも頑張ってください。

## 日台交流をさらに活発に

日台稲門会 幹事長 梶山憲一

日台稲門会は、台湾になにかしら縁のある者、関心の高い者が集う、日台交流に特化した稲門会です。

近年、日本では台湾への関心や好感度が高まりを見せていますが、もともと台湾は、切っても切れない縁がある日本にとって大切なお隣さん。そんな思いから、当会が設立されたのは1997年。さまざまな活動をしてきましたが、近年の活動の軸は、春夏と総会時の、台湾がテーマの硬軟とりまぜた年三回の講演会を開くこと。

ほかに、台湾の校友会や在住日本人が主体の台北稲門会との交流も盛んです。そして、早大で学ぶ台湾留学生との交流も進めています。こうした活動の詳細や過去の会報は、当会のホームページ

(「日台稲門会」で検索)で見ることができます。

講演会などが開催できない現在、動画のネット配信などを計画していますので、期待してください。そして、台湾に縁や関心のある校友が、さらに当会に参加してくれれば、大歓迎です。

編集部より

今年も皆様の原稿をお待ちしております。